さくら並木

ふるさとの夏祭り　～心の豊かさ、そして純情（すなお）な心～

大河原町長　齋　清志

この夏は記憶にないほどの雨と低温の日が続き、稲作を始め農作物への影響が懸念されるところです。そんな悪天候にも関わらず、町内各地で数多くの夏祭りが開催されました。残念なことに中止を余儀なくされた地区行事もあって、寂しい思いをされたかたも多かったものと受け止めています。

そんななか、仏教会の「みたまの魂祭り流燈会」が開催されましたが、その案内状に～日本社会本来の心の豊かさを取り戻すために～とありました。ご先祖に手を合わせ感謝の念を持って純情な心に立ち返るとき、生きているというよりは生命のつながりによって生かされているのです、と教えをいただきました。

各地で実施される盆踊りは、先祖の霊を迎え送るための念仏踊りとして始まった宗教行事ですが、現在は誰もが参加でき先祖への思いを馳せ供養するための踊りとなっています。子どもたちにとっては、今年も夏休みの大きなイベントだったに違いありません。心の豊かさの実感は確かめようがありませんが、地域交流という地区の目標は充分達成されたものと感じています。区長さんや役員の皆さんの使命感に支えられている姿には、心から感謝の気持ちでいっぱいです。親から子へ、祖父母から孫へと伝え続けていく意味は大きく、家族の絆の確認や先祖を敬う純情な心を育む大切な機会となったことでしょう。

本町もいよいよ人口が減少し少子高齢社会を迎え、さらに認知症のかたの増加や核家族化・孤立化にも拍車がかかり、生活の質や生命（いのち）の尊厳が危ぶまれる現実も生まれています。地区によっては、伝統行事の開催も困難になりつつある状況も見受けられます。しかし、そんな時代だからこそ、ふるさとの夏祭りに大いに参加し心の豊かさを感じとってほしいと思うのです。ここに、これからの社会に最も重要となる、支えあいや助けあいの仕組みづくりのヒントが隠されているように感じられてなりません。

人は皆、楽しく暮らしたい、幸福に生きたい、と願っていますが、そう簡単なことではないようです。「万人幸福の栞」のなかで丸山敏雄先生は、皆が幸福にたどりつく道を次のように示しています。「明朗（ほがらか）、愛和（なかよく）、喜働（喜んで働く）の3つであり、今一歩進めてみると、純情（すなお）の1つになります。ふんわりとやわらかで、何のこだわりも不足もなく、澄みきった張りきった心、これを持ち続けることであります。」と書いています。

心の豊かさの実感と純情な心は、何か相通じるものがあると思えてならない今年の夏でした。（8月21日記）

駅前図書館今月の新刊　まちの本棚

一般

■カラスと人の巣づくり協定
後藤　三千代／著　【築地書館】
カラスの巣を減らすには、「撤去」ではなく「設置」が鍵だった！30年に及ぶカラスの生態研究を通して、カラスと人が共生する優しい社会を作り出す画期的な方法を示す。

小説

■dele
本多　孝好／著　【KADOKAWA】
依頼人の死後、その人が使っていたデジタルデバイスから指定されたデータを削除する。そんな仕事をする祐太郎と圭司は、様々な事件に遭遇する。残された秘密のデータの謎、そこにある真実とは…。『小説野性時代』連載に加筆。

児童

■科学の実験大図鑑
ロバート ウィンストン／著　【新星出版社】
身のまわりの世界について学び、科学の冒険（ぼうけん）に出よう！結晶（けっしょう）キャンディー、スーパー紙飛行機、液体（えきたい）タワー、風力キャッチャー…。作って遊べる楽しい28の実験を、「食べもの」「おうちにある材料」「水の世界」「おうちの外」に分けて紹介（しょうかい）します。

絵本

■走れ！みかんのかわ
吉田　戦車／著　【河北書房新社】
あるところに、みかんがくらしておりました。よるになるとねむり、あさになるとおきる…。でも、そのひのあさは、いつもとちがっていました。あ～っ！〝み〟がいなくなっちゃった！みかんは、いいえ、みかんのかわは、はしりだしました。にげた〝み〟は、みつかるのでしょうか？

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

大河原小学校

学んだことを活用する力を高めるために

本校では、算数を中心に子どもたちが学んだことを他の場面でも適用できる力「活用する力」を高める研究に取り組んでいます。普段の授業では、**友達の考えを比較しながら解釈するといった対話的な学びを積極的に取り入れています。**そうした学びの成果が、3人1組のチームで臨む町や県の算数チャレンジ大会で良い成績を収めることにもつながりました。**11月7日には自主公開研究会を開催**します。対話的な授業づくりを一層深める機会にしたいと思います。

大河原南小学校

じゃがいもどっさり、JAさんありがとう

7月7日は1年生の「いも掘り遠足」でした。子どもたちは、「うわぁっ！いもがたくさん出てくる。」「見てーっ。こんなに大きいよ！」と大喜び。夢中になって土を掘り返したり、JAみやぎ仙南の皆さんにスコップで掘るのを手伝ってもらったりしながら収穫しました。

帰りのバスでは、「じゃがバターにして食べたいなぁ。」「ポテトサラダにしてもらうんだ。」と話しながら、帰校しました。

作物を収穫する喜びと支援していただいた皆さんへの感謝の気持ちを味わうすばらしい体験となりました。

暗唱大好き　シリーズ⑰　金小編

金ケ瀬小学校では、業前活動の時間を使って暗唱活動に取り組んでいます。高学年の子どもたちの本は使い込まれていて、何度も何度も繰り返し練習した様子が伺えます。また、**暗唱読本を見なくても諳（そらん）じることができ、練習の成果が伺えます。**

子どもたちは、それぞれ自分たちのお気に入りがあり、休み時間や授業の合間などを利用して自分の好きなところを読むなど積極的に活用しています。

練習の成果は、朗読集会で発表します。全校の前で発表するときには、姿勢や声の大きさ、学年ごとに工夫した演出も加えて発表します。今回は、4年生の「がまの油」等でした。